

狂亂

カニ流行テ河中ノ洲サキニ、ヲシアゲラレヌ、トバカリ有テ、ヨミガヘリテ、コハイカニシテ、カ、ル所ニアルニカト思メ、グラス程ニ、例ノ病ニヨリテ、河へ落入ニケリ、アブナカリケル命カナト淺猿覺エテ、獨言ニ死タレバコソ生タレ、生タラバ死ニナマシ、カシコクシテ死シケンケル、ケウニ死ヌラフニトゾイヒケル、マコトニ大河ノ流疾ク、底深ケレバ息絶ズハ沈テ死ナマシ、息絶ヌレバウカブ事ニテコソ、角助ヌル事ヲ云ケルニコソ、忌キ利口ナリ、

〔醫心方三〕治中風狂病方第廿三

病源論云、狂病者、由風邪入、并於陽所爲也、風邪入、人血脈、使人陰陽二氣虛實不調、若一實一虛、則令血氣相并、氣并於陽、則爲狂、發則欲走、或自高賢、稱神聖是也、

〔覆載萬安方三〕風狂モノクルハシ陽病也

論曰、風狂之狀、始發則少臥不饑、自高自賢、自辯自貴、蓋人之榮衛、周身循環、晝夜不窮、一失其平、則有血并於陰、而氣并於陽者、有血并於陽、而氣并於陰者、陰陽二氣虛實不調、邪乘虛而入、并於陽、則謂之重陽、故其病妄笑好樂、妄行不休、甚則棄衣而走、登高而歌、或至數日不食、故曰狂也、又肝藏魂、則隨神往來、悲哀動中、有傷於魂、則爲狂妄、是亦血氣俱虛、風邪乘之、陰陽相并也、陽病狂動、陰病癡絕也、

〔病名彙解五〕癡狂俗ニ云キチガイナリ癡ト狂ト小ク異ナルコトアリ、

〔三代實錄清和十三〕貞觀八年九月廿二日甲子、夏、井者左京人、美濃守從四位下善岑之第三子也、略又

閑醫藥之道、配土佐之後、自往山澤採藥、合練以施民、民多得其驗、嘗有一人中風、被髮狂走、夏井與一匕散藥、以令服之、此人立癒、皆此之類也、

〔源氏物語賢木十〕このたびのつかさめしにももれぬれど、いとしもおもひいれず、大將殿源氏源かうしづかにておはするに、世ははかなきものと見えぬるを、ましてことわりとおぼしなして、つねにまいりかよひ給ひつゝ、がくもんをしあそびをももろともにし給ふ、いにしへもの